山陽堂だより 93

2017年4月卯月

3月の書籍ベスト5
1. 騎士団長殺し 第1部 村上春樹著
2. 〃 第2部 〃
3. 火花 又吉直樹著
4. サイコパス 中野信子著
5. 悲しみの秘儀 若松英輔著
5. リバース 湊かなえ著

3月雑誌ベスト5
1. SPUR4月号 春ムードの花が咲きました。
2. GINZA4月号 音楽の神様がアルバムに舞い降りる時
3. 家庭画報4月号「台湾」極上の旅へ
4. エルジャポン4月号 映画に恋して!
5. POPEYE 4月号 春はほんわか気分はコンパク
5. BRUTUS 3/15号 新しいティーカルチャー

SANYO-DO SHOTEN
山陽堂書店
03-3401-1309

ゴールデンウィーク中
おやすみのお知らせ
日・祝・5/6土
休業いたします。

今月は川柳
仕事やめたら
楽しくなりやんだ
久喜たのなか 毎日川柳

また会う日まで『考える人』、これからもよろしく『Webでも考える人』

期　間: 4月4日（火）-11日（火）　平日11時－19時　土11時－17時　日祝お休み

plain living & high thinking（シンプルな暮らし、自分の頭で考える力）を編集理念に掲げて創刊された新潮社の季刊誌『考える人』が、創刊から15年、通巻60号の節目の号2017年春号をもって休刊になります。ギャラリー山陽堂ではいつか復刊される日を祈りつつできたての春号をはじめ、バックナンバーの数々を見ていただきながら、河野編集長と楽しくお話しいただける場を用意させていただきました。期間中、河野さんと編集部の方が基本的にギャラリーに常駐する予定です。「考える人」と関係の深いイラストレーターさんや写真家さんの作品の展示、また、会期中3回のイベントも開催いたします。

◆第一回トークイベント　4月7日（金）19時より

向井万起男さん×河野通和編集長「読むこと、考えること」

「考える人」に書評エッセイ「どんな本、こんな本」を連載していただいた医師でエッセイストの向井万起男さんと河野編集長が「読むこと、考えること」をテーマに楽しいトークを繰り広げます。

◇向井万起男さんプロフィール：1947年、東京都生まれ。医師。著書に『君について行こう――女房は宇宙をめざした』『女房が宇宙を飛んだ』『ハードボイルドに生きるのだ』など。2009年、『謎の1セント硬貨　真実は細部に宿る in USA』で第25回講談社エッセイ賞受賞。「世界一メジャーリーグに詳しい病理医」として朝日新聞にコラムを連載中。

◇河野通和さんプロフィール：1953年、岡山市生まれ。1978年中央公論社（現・中央公論新社）入社。主として雑誌編集畑を歩み、『婦人公論』『中央公論』編集長を歴任。2008年同社退社。2010年新潮社に入社し、『考える人』編集長。メールマガジンをまとめた著書は『言葉はこうして生き残った』（ミシマ社）、『「考える人」は本を読む』（角川新書）

◆第二回トークイベント　4月10日（月）19時より

4月10日（月）トークイベント「誰も書かなかったイタリア」

エッセイスト　内田洋子さん　×　河野編集長

◇内田洋子さんプロフィール：『ジーノの家』で日本エッセイストクラブ賞、講談社エッセイ賞をダブル受賞して注目される、イタリア在住のエッセイストの内田洋子さんを迎え、「Webでも考える人」連載中のイタリアン・エクスプレス」に描かれたイタリア人の意外な陰影に富む表情を、河野編集長が具体的に聞いてまいります。

◆第三回イベント　4月11日（火）19時より

4月11日（火）小林秀雄の誕生日に小林秀雄を語る会

没後30年にちなんで特集した「小林秀雄　最後の日々」（「考える人」2013年春号）は、発売即重版となり、小林秀雄人気の根強さを印象づけました。その号にデビュー長編評論「契りのストラディヴァリウス」を寄せ、その後「小林秀雄の時」を連載して下さった杉本圭司さんや、生前の小林秀雄をよく知る新潮社OBの池田雅延さんらを迎え、小林秀雄をめぐるとっておきの話を語ります。

◇潮田登久子さんの写真展開催までのこと　一三代にわたるご縁一　3/1-10

２０１５年漫画家でイラストレーターのしまおまほさんが、雑誌の取材で山陽堂を訪ねてくれました。母方の御祖父様が、戦前山陽堂の近くにお住まいで当書店の話をしてくださっていたとのこと。

私は、お母様の旧姓とだいたいの場所をお聞きし、まほさんが写真撮影している間、

伯父（1917生）が残した山陽堂の資料を探しました。

当時の顧客地図を広げるとお名前がありました。

「雨が降っても風が吹いても学校の帰りによく寄られる慶応ボーイの弟さん」

こんなコメントも残されており、印象深いお客様だったのだと思いました。

　それから何日か経って、まほさんのお母様

(この方がこの度の写真展を開催してくださった潮田登久子さんです)

も来店され当時の地図や資料をご覧いただきました。

潮田さんのお父様（まほさんのお祖父様）はよく青山原宿界隈の話をなさっていたとのことでした。

お客様の中に「山陽堂」の記憶が残り、語り継がれていることをうれしく思いました。

　約2年後、潮田登久子「みすず書房旧社屋」（幻戯書房）が出版され、

新聞の書評などでよくお名前を見かけるようになりました。

今年になって潮田さんの著書を改めて手にとり、写真展開催実現に至りました。

　同じ地で長く商売を続けていると、時を越えてなにかがつながり、

またそこから新しいなにかにつながっていくことがあります。

◇春の安西水丸展③　3/14-4/1 ギャラリーノートから

・初めて作品を拝見させていただきました。影の描き方がすごく好きになりました（笑）偶然でしたが、みることができてよかったです。

・水丸さんの大ファンです。お亡くなりになる一年程前、この青山でお見かけしました。さっそうと自転車に乗り、かけぬけて行った後姿をいつまでも見ていました。

・病院の帰りに立ち寄りました。あこがれの氏の作品を近くで見ることが出来て、大変うれしい。
急逝されたことが惜しまれますが、氏の作品が永く人々に愛されることを願っています。

・今日は雨の東京。
四月に向けて忙しくなった仕事のあい間をぬって青山迄髪を切りに参りました。予約の時間迄半時間ほどのこされていたので、青山の街をてくてくと歩いていたら、雨がすみの中に優しい明かりをはなつ書店を見付けて、すいこまれるように入ったのです。そうしたら、お気に入りの安西さんの個展。
雨の音、木の床をコツコツと歩く人の足音、遠くの方で聞こえる誰かの笑い声。そんなぬくもりのある音に包まれながら一人ながめるイラストはいちだんと透明感が感じられ幸せなひとときでした。素敵な時間をありがとうございました。

◇また会う日まで『考える人』、これからもよろしく『Webでも考える人』のこと。4/4-11

　会期中、いろいろな方がお立ち寄りくださいました。

台湾からの留学生は、大学の授業でこの雑誌を知り、それ以来この本で日本語を学ばれていたそうです。大阪からの大学生は特集の『考える人５９号　ことばの危機、ことばの未来』の特集に感銘を受けカバンの中からその本を出して見せてくれました。海外に暮らす女性は、日本から季節ごとに届く雑誌『考える人』をゆっくりと読むのを楽しみだったので、これから何の雑誌を読もうかとおっしゃっていました。三回のイベントは満員御礼。

イベント名の通り、「また会う日まで『考える人』になる日が来ますように。『Webでも考える人』は続いております。ぜひ訪ねてみてください。

5/9(火)休 ↘ 23(火)　益田ミリさんの『今日の人生展』開催します。おたのしみに！

（ミシマ社工創業10周年記念企画！今日の人生1620㌔）